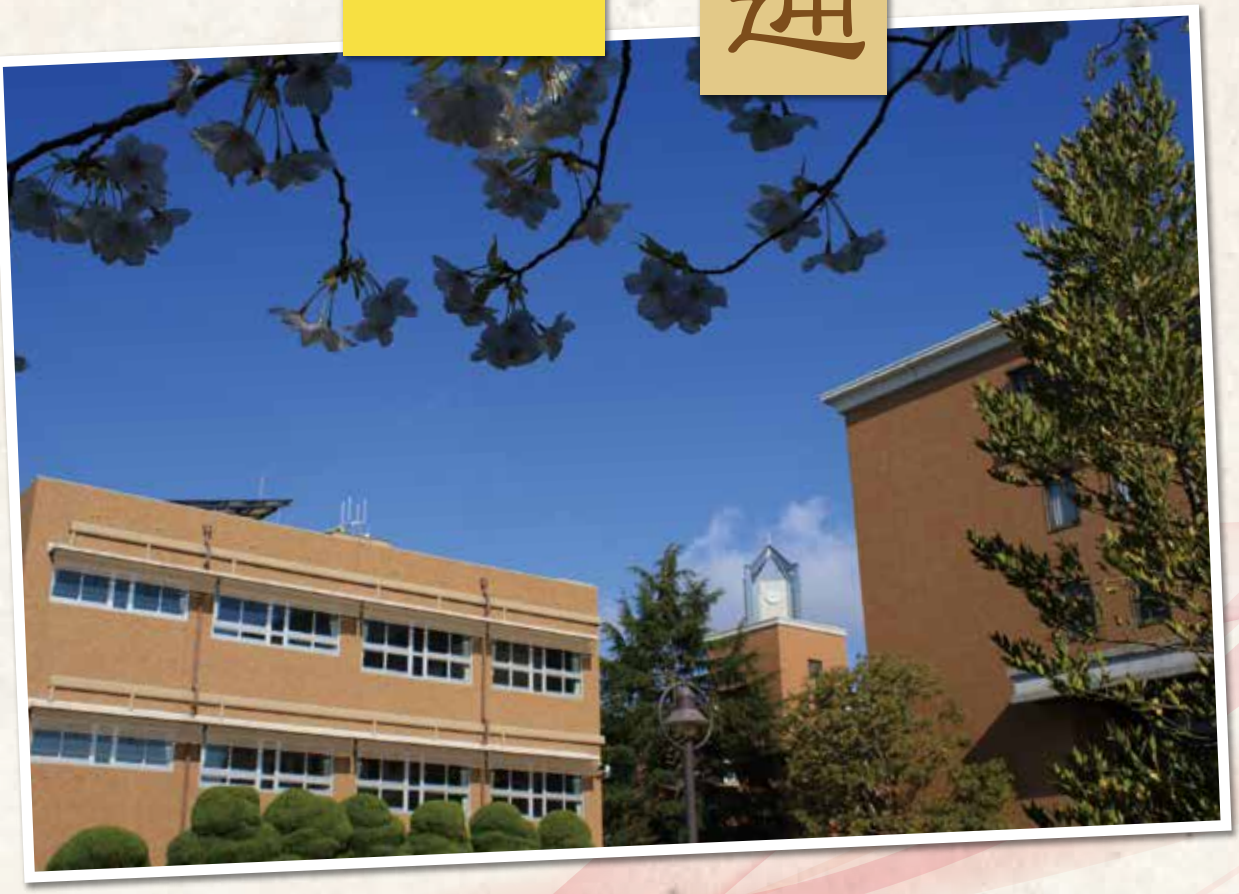
HANAZONO Univ.

花園大学

同窓会通信

2020
March
Vol.100



CONTENTS

卒業生へのインタビュー ……2
同窓会ニュース ……8
大学ニュース ……12
「お元気ですか」 ……18
「お久しぶりです」 ……20
書籍紹介 ……21
花園大学創立 150 周年記念事業 ……22

ラグビーワールドカップ2019、悲願のベスト8達成!

日本代表ナンバー8、アマナキ・レレイ・マフィ選手、母校に凱旋。

凱旋セレモニー・レポート

ラグビー ワールドカップ 2019、初めての日本開催となったこの大会で、日本代表チームは史上初めて決勝トーナメントに進出し、ベスト8の快挙を成し遂げました。日本中を熱狂の渦に巻き込んだ代表チームのナンバー8、アマナキ・レレイ・マフィ選手は花園大学卒業生です。

ワールドカップの興奮冷めやらぬ11月11日、マフィ選手が大会の報告のため母校を訪れ、凱旋セレモニーが開催されました。会場となった教堂ホールは、報道関係者や学生など多くの人が詰めかけて満席となり、立ち見の方もいる状況となりました。ラグビー部の川勝主一郎総監督、江森隆史監督とともに、マフィ選手が登場するとホール内は大きな拍手と歓声に包まれました。まず丹治光浩学長が挨拶に立ち、出張先の台湾において花園大学の紹介をした際に「ラグビー日本代表でマフィという選手が活躍していますが、実は、彼は本学の卒業生なのです」と伝えたところ、喝采を浴びたという話を披露、「ラグビー部などの強化クラブは花園大学の名前を広め、他の学生の模範ともなる存在であってほしいと思っていますが、正にマフィさんはそれを実践してくれている」と述べました。その後、日本中に勇気と希望を与えたマフィ選手の活躍を称え、丹治学長から花園大学スポーツ賞が授与されるとともに、花園大学同窓会、佐野泰典副会長よりマフィ選手に対して賞金が授与されました。またラグビー部の川勝総監督からは、今大会でマフィ選手が怪我に苦しんだことを踏まえ、「前に進もうとするのはいいけれど、怪我をしないように。これからはできるだけ多く試合に出られるように、がんばってください」との激励の言葉が寄せられました。

続いて、マフィ選手が「本日は、たくさんの皆様にお集まりいただき、ありがとうございます。皆様の応援のおかげで、今回の大会はベスト8になることができました」と挨拶。さらに花園大学への入学当時について、「私のことを信じてトンガまで迎えに来てくれてありがとうございました。初めて来たときになんやと思ったんですよ。ホームシックになり、すぐ帰りたいという気持ちになりました。しかし親から頑張れと言われ、今となれば、本当に帰らなくてよかったと思っています。このレベルまで来て妻と話すのですが、花園大学に来て本当によかったと思います」と感謝の言葉を述べました。また在学中のことについて「先生たちも優しくて、授業で寝ていても大丈夫でした。それが一番の思い出です」とユーモアを交えて語り、在学中に川勝総監督や江森監督から言われて一番印象に残っている言葉が「ちゃんとやれ」であったと言って、会場を笑わせました。最後に「今回の大会では、あまり活躍できませんでしたが、日本代表チームとしてベスト8の結果を達成できたので、よかったと思います。次の大会で、がんばります。これからもよろしくお願いします」と力強く述べると、割れんばかりの拍手が会場を包みました。

中心選手として、二度目のワールドカップ出場

アマナキ・レレイ・マフィ選手（身長189cm、体重112キロ、愛称ナキ）は、1990年1月11日、トンガ王国生まれ。幼少の頃よりラグビーを始め、母国ではU18、U20の年代別チームに選出。2010年4月に花園大学国際禅学科（現仏教学科）に入学。大学卒業後、2014年からトップリーグのNTTコミュニケーションズ シャイニング アークスに加入。同年11月、日本代表として初めてのキャップを獲得。

マフィ選手がワールドカップに日本代表として出場するのは前回2015年イングランド大会に続き2回目。前大会では、日本代表は強豪南アフリカとの試合において、ロスタイムでの逆転トライで、「スポーツ史上最大の番狂わせ」ともいわれる歴史的な勝利をおさめ、世界を驚かせましたが、その劇的な逆転トライをアシストしたのがマフィ選手でした。立川選手からパスを受け、タックルに来た大柄な相手選手をハンドオフで凌ぎ、ヘスケス選手につないだシーンは、テレビなどで何度も放映され、マフィ選手の名は世界に轟きました。

2015年のワールドカップ終了後も、マフィ選手は母校に帰って来ました。その際の凱旋セレモニーにおいて、川勝総監督から「あのハンドオフ一発で、いい形で点がとれた」と言われると、マフィ選手は「花園のパワーです」と言って会場を沸かせ、次回大会での活躍を約束してくれました。

イングランド大会後、マフィ選手の活躍を見て、海外チームから数多くのオファーが寄せられ、2016年にはイングランド・プレミアシップのバース、2017年・2018年はスーパーラグビー（ニュージーランド、オーストラリア、南アフリカ、アルゼンチン、日本の5か国15のプロチームが参加する国際リーグ戦）のレベルズ（オーストラリア）など活躍の場を世界に広げ、マフィ選手は、名実ともに国際的な選手となっていきました。

そしてイングランド大会から4年、マフィ選手は、再び日本代表に選出され、ワールドカップ日本大会への出場を果たしました。前回大会から連続で日本代表に選出されたメンバーは非常に少なく、前回大活

躍をした人気選手であっても選に漏れる状況のなか、再びキャップを獲得したことは、それ自体称賛に値します。

今回、日本代表の中心選手として周囲の期待も大きく、注目を浴びることも多かったとマフィ選手は言います。「メディアに批判されることもありますが、そうしたことに惑わされることのないようにしないと試合に集中できません。やはり自分のラグビーの仕事にフォーカスしないといけない。そのために、一つには家族との時間は大切にするようにしていました。それと、試合前にはルーティーンを決めて、それをやるようにしていました。ルーティーンとしては、毎日お祈りをするようにしています。私はクリスチャンなんです。それから試合前には、必ずチキンカツを食べるようにしています」

今回、マフィ選手は、新しくチームに加わったメンバーにアドバイスすることもあったと言います。「今大会では、ジェイミー・ジョセフHCが“One Team”というスローガンを掲げました。ラグビーは一人では何もできません。今回はベスト8という目標がありましたが、その達成のためには、チームワークが大切です。私は、自分が日本代表に初めて選出されたときに先輩たちが言ってくれたことを、今回の新メンバーにも伝えるようにしていました。ただ私自身が、まだまだ若いので、新メンバーとは、同じように接していました。日本代表として、きちんとやらないといけない厳しい部分もある一方で、楽しい部分もあります。一緒に活動する期間は非常に長いですから、厳しいだけでもいけませんし、楽しいだけでもいけません。メリハリをつけることが大切です。練習は、しっかり集中して厳しくやりました。それが試合でのよい結果につながったと思います」

怪我でも全力プレー、他の選手の闘志に火をつける活躍

今回のワールドカップ前に、パシフィックネーションズカップ（PNC）という大会があり、日本は見事に優勝しました。マフィ選手も大活躍をして調子を上げていましたが、9月6日に行われた南アフリカとのテストマッチにおいて、アクシデントに見舞われます。試合後半、マフィ選手は右肩を痛めて途中退場となったのです。

「そのときはなんでこのタイミングで怪我なんだと思いました。ジェイミー・ジョセフHCからは、しっかり治してほしいと言われました。妻やメディカルスタッフがケアしてくれて、朝は自分のクラブチームに行って治療してもらい、その後、他のところにも行き、何ケ所かでいろんな治療をして、なんとかしてワールドカップに間に合わせようとしました。でもワールドカップ初戦のロシア戦で、やっぱりまだあかんなと思って、監督に相談しました。すると監督からは『ロシア戦は何とかするから、1週間休んでしっかり治したほうがいい』と言われました。監督は次のアイルランド戦のことを考えていました」

そして無事ロシア戦に勝利して迎えたアイルランド戦。マフィ選手は復帰しましたが、再びアクシデントに見舞われます。アイルランドのトライを防ごうと捨て身で突っ込むなど雄姿を見せてくれていましたが、前半30分、肋軟骨を痛め、無念の途中交代。そのときの気持ちをマフィ選手は次のように語ります。

「アイルランド戦は、プレーできるように治したんですよ。それなのに、またアイルランド戦でやられて、あのときは悔しい気持がありました。立ち上がってもう一回やったじゃないですか、もう一回同じところをやられて・・・やはりもっと闘いたいなと思いましたね。ずっと悲しかったのですが、監督が慰めてくれました。『怪我はしょうがない、しっかり治して』と言ってくれました」

マフィ選手の怪我は、闘志溢れる全力でのプレーの結果です。マフィ選手の途中交代が、他の選手の闘志に火をつけたといえるかもしれません。12−3の状態から、日本代表は徐々に点差を縮め、後半遂に逆転のトライを挙げ、大方の予想を裏切り、日本代表はアイルランド戦で歴史的な勝利をおさめました。

その後マフィ選手は、病院で治療を受けますが、痛めた肋軟骨の状態はかなり悪く深刻な状態でした。「骨が折れていたのですが、折れたものは取り出さなかったんです。手術をすると、もうこの先の試合は出場が無理となるでしょう。治療した先生たちも、試合に出てほしいと思っていました。決勝トーナメントの南アフリカ戦には、なんとか出場しましたが、全然治っていませんでしたので、実はすごく痛みが残っていました。でもやらないといけない。ベストな状態でない自分に気持ちが落ち込んでいましたが、兄がトンガから応援に来てくれて、『おまえは無理をしなくてもいい。できることをやればいい』と言ってくれました。その言葉に励まされました」

準々決勝の南アフリカ戦について、「南アフリカは強かった。このチームが優勝するのではないかと思った」とマフィ選手。実際、そのとおり、南アフリカが優勝。しかしマフィ選手は、決勝戦はイングランドを応援していたと言います。イングランドのエディHCは、2015年大会の際の日本代表のヘッドコーチであり、マフィ選手の才能を「ギフト（神様からの贈りもの）」と呼び、誰よりも高く評価していたのは、他ならぬエディ氏だったからです。日本代表に初めて選出された時のことをマフィ選手は次のように述懐します。「NTTコミュニケーションズに加入してまもなく、試合後にNTTの監督が私のところに来て、『昨日エディから連絡があったよ』と言われました。当時、トンガ代表を目指しており、日本代表になることなど考えてもいませんでしたので、非常に驚きました。妻をはじめ、いろんな人に相談しましたが、誰に聞いても『応援します』と喜んでくれました。それでやはり日本のほうがいいかなと思いました。日本を選んでよかったと思います」

イングランドを応援していたマフィ選手ですが、今回の南アフリカ優勝という結果について「それでよ

かったと思う。南アフリカには、多様な人種がいますが、今回の優勝で国が一つになることができた。それは素晴らしいことだと思います」と納得した様子でした。

日本人らしさを身につける場所、花園大学に来てよかった

今回のセレモニーにはマフィ選手のご家族も来校されました。来日当時、文化や習慣の違いなどに悩むマフィ選手をそばで支えたのは奥様でした。奥様とマフィ選手は学生時代に出会い、交際をスタートさせました。「雪は京都に来て初めて見ました」とマフィ選手が語ると、奥様も「最初の冬は、寒い、寒いと言っていました。服のサイズもちょうどあうものがなかったんです」と当時の思い出を語ります。

セレモニーでの挨拶で、マフィ選手は、授業中寝ていたと言って会場の笑いを誘いましたが、当時を知っている教職員の話では、マフィ選手は骨折した翌日にも休まずに学校に来て、真面目に授業を受け、坐禅などにも真剣に取り組んでいたとのことです。学生時代、決して経済的に余裕のある状態とは言えなかったのですが、学外でのアルバイトは禁止されていたため、マフィ選手は学内のバイトに従事していました。「机や椅子を運ぶバイトがあって、みんな私が、大変な力持ちだと勘違いして、一度に6個ぐらい椅子とか渡されて大変でした」と言って笑いながら、「当時は辛いこともたくさんありましたが、今となると楽しい思い出です」とマフィ選手は言いました。

学生時代、マフィ選手は、母国トンガの代表になりたいと思っていました。「3回生のときに、トンガの代表監督のメールアドレスを調べて連絡しました。監督からは、今まであなたのプレーは見たことがないから、選ぶのは難しい。もしよかったらビデオを送ってくださいとのことでした。それでビデオを送ったのですが、ノーリアクションでした」

そんなマフィ選手に転機ともいえるチャンスが訪れます。「関西学生南北対抗戦というイベントがあって、大阪と京都の試合に花園大学から二人出場しました。集まった当日にポジションを示された混成チームでプレーします。私たちの試合の前に明治大学と天理大学が試合をやっているのを見て、こんなに多くのお客さんのいるところでプレーできるのはビッグチャンスだと思いました。それで思い切りアピールしました。すると月曜日に江森監督から『おまえ、NTTからリアクションが来たぞ』と言われ、すごく驚きました。そのときはNTTのことも知らなかったんです。『明後日ぐらいに大学に来る』と言われ、本当に来られたんです。いつも練習は、手を抜いていたりしたのですが、そのときは一生懸命にやりました（笑）」こうして、マフィ選手は大学卒業後、日本のトップリーグ、NTTコミュニケーションズに加入したのです。

今回のワールドカップについてマフィ選手は、「日本開催だったので、家族の前で試合ができました。試合中、本当なら疲れているはずなのに、みんなの声が聞こえると全然疲れを感じない。力を得ることができました」と言います。

南アフリカとの準々決勝の試合終了のホイッスルが鳴り、ノーサイドとなった後、怪我が癒えず、満身創痍で死闘を終えたはずのマフィ選手の笑顔がグラウンドにありました。マフィ選手は、日本代表の小さなジャージを着た二人の息子さんをグラウンド内に招き入れ、笑顔で抱きしめていました。その光景は非常に印象深く、美しいものでした。そのときのことをマフィ選手にお聞きすると「半年ほどの間、ハードワークしていて、家族とも会えませんでした。ベスト8の目標を達成した充実感と、日本で開催されるワールドカップのこの瞬間を息子と分かち合いたいと思っていたら、トンガからかけつけてくれた親戚が息子たちをグランドにいる私に渡してくれたんです」

今回の凱旋セレモニーに、マフィ選手は、二人の息子さんを連れて来られました。二人の息子さんに、「ここがパパの大学だよ」と語りかけている姿がとても印象的でした。マフィ選手にとって花園大学はどんな場所であったかと質問すると、「私にとっての花園大学は、日本の文化を学ぶ場所でした。私が少しでも日本人らしさというものを身につけることができたのだとすれば、それは花園大学のおかげです。花園大学で出会った人たちはみんないい人でした。大学で様々な人と出会えたことがよかったです」

最後にマフィ選手から、花園大学の学生たちにメッセージをいただきました。「自分の目標を決め、それを目指して、どんな大変な時でも諦めず、前を向いてハードワークをして、目標を実現してください」そう語るマフィ選手の表情は、試合では決して見せることのない、優しい笑顔でした。

Profile

アマナキ・レレイ・マフィ選手

身長189cm、体重112キロ、愛称ナキ

1990年　トンガ王国で生まれる
　　幼少の頃よりラグビーを始め、母国ではU18、U20の年代別チームに選出
2014年　花園大学文学部国際禅学科（現：仏教学科）卒業
　　トップリーグのNTTコミュニケーションズ シャイニングアークスに加入
　　日本代表として初めてのキャップを獲得
2015年　ワールドカップイングランド大会出場
2019年　ワールドカップ日本大会出場

同窓会ニュース

時代は変わっても続いている卒業生同士の交流や親睦。
今年度も、支部総会・役員会、同窓会など多数開催のご報告をいただいております。
一部をご紹介申し上げます。

各支部会

佐賀県支部総会　事務局　福郷　宗隆

元号が令和となり初の佐賀県支部総会を6月28日、玄界灘を臨む唐津市で開催いたしました。広大な松林が広がる虹の松原沿いにのびる東の浜を見おろす「ホテル&リゾーツ佐賀唐津」を会場に木下支部長はじめ、17名の会員、また花園大学より学務部長の松田隆行教授、塩見ゆかり総務課長をお迎えし、午後6時より総会を行いました。

始めに木下支部長より挨拶、全国支部長会の報告があり、その後松田先生より花園大学の活動報告をしていただきました。次に事務局より平成30年度の会計報告、監査報告の後、次年度予算案の審議を行いました。審議の結果、出席者全員の承認を得て、議事は滞りなく円成いたしました。

引き続き、同ホテル内の宴会場に場所を移し懇親会となり、地元で獲れた新鮮な海の幸、山の幸をいただきながら、久しぶりに会う懐かしい友人との大学時代の思い出話に花を咲かせ、来年また元気に再会できることを願いながら盛会のうちに閉会となりました。

島根県支部総会　事務局長　岩浅　慎龍

日時：令和元年6月29日（土）18時～
場所：松江エクセルホテル東急

令和元年6月29日（土）、松江エクセルホテル東急において、島根県支部総会を開催しました。当日は花園学園より松井学園長、丹治学長、法人本部より堀尾氏、小倉氏、同窓会事務局より西澤氏を来賓としてお招きし、県内同窓生25名が参加し盛大に行われました。

総会の議事では、支部の役員交替について協議し、長年務められた加藤眞丈支部長に替わり、若槻大浩氏が新支部長に選任されました。また、新たに選任された委員12名のほか、今までの委員全員が顧問に就くことで承認されました。その後は、学園の現状報告と創立150周年に向けての取り組みを拝聴しました。

懇親会では、皆それぞれ、在学中の思い出などに話がはずみ、和やかなひとときでした。役員が新体制となり、これから150周年に向けて母校を益々支えていけるよう、想いを新たにした一日となりました。

愛知支部総会　事務局　大野　浩宗

令和元年7月4日　名古屋キャッスルプラザ・チャイナダイニング「圓」におきまして、花園大学同窓会愛知支部の総会が開催されました。大学からは、社会福祉学部長・小海宏之氏と事務局・西澤直美氏や学園法人本部事務局長の堀尾行寛師・同顧問の宮川禅磨師に御臨席を賜り、支部総会が開会致しました。学部長による花園大学の現状の報告並びに花園大学創立150周年記念事業に関しての説明を頂きました。事務局より決算と予算案が報告され支部長より150周年の募財に対しての愛知支部の方針の説明がありました。

総会に続いて懇親会では、25名の参加者が楽しく親睦を深めて閉会となりました。

三重県支部総会　事務局　村山　光彦

花園大学同窓会三重県支部では、令和元年11月7日午後6時より、津市のプラザ洞津において、会員7名が参加し、大学事務局より黒川事務局次長・塩見総務課長にお越しいただき、令和元年度支部総会を開催した。

はじめに、分部支部長が挨拶し、2022年の創立150周年記念事業にあたり、支部会員に協力のお願いがあった。つづいて、黒川事務局次長が挨拶され、議事に入った。　議事は令和元年度会計決算報告・監査報告がされ承認された。次に花園大学の黒川事務局次長より大学の創立150周年記念事業の内容や近況についてお話をいただいた。特に学内整備では、グラウンドを人工芝にすることや、西小路側（西門）の周辺整備等について説明いただいた。

その後、支部長より記念事業の募財については、来年度の総会までに各会員に通達し、お願いする予定である旨発表があった。

議事終了に引き続き、親睦会を行い、会員相互の親睦を深め、大学歌を斉唱して総会を終了した。次回の盛会を祈念いたします。

兵庫東支部総会　事務局　原田　太胤

神戸では毎年8月23日夕方より地蔵盆の行事があり、子供たちにとって夏休み最後の楽しみで賑わう同日、花園大学協賛による映画「いなくなれ、群青」の特別試写会を神戸ハーバーランドOSシネマで260名を招待して行ないました。

日を改めて11月9日（土）長田区内神戸飯店にて支部会を開催しました。大学より秦美香子就職部長並びに同窓会事務局西澤直美係長が来神頂き、田中金作兵庫西支部長も同席されました。今席には平成31年花まつり前日の4月7日に行なわれた神戸市議会選挙で初当選した卒業生も来席して学生時代の思い出や近況の神戸市政の話をしてもらいました。席中毎回場を盛り上げてくれる朝尾氏演出によるくじ引きが行なわれ、まるでやらせかと錯覚するぐらい、その人その人に似合った景品が当たり笑いの中で無事納めることが出来ました。

信越支部総会　日時：2019年9月10日　16時～　　場所：諏訪湖畔の宿「布半」（長野県諏訪市）

総会及び懇親会は、20名を越える方々が集いました。
法人から松井宗益学園長、大学からは大原孝弘特命課長が出席しました。
総会では、磯部弘文支部長の挨拶、続いて松井宗益学園長の来賓祝辞のあと、平成30年度の事業報告、会計報告、監査報告、在学生記念品送付、会費徴収などの事務報告、また花園大学150周年記念事業に関する説明がありました。
総会後、同会場にて懇親会を開催し、様々な年代の同窓生が親交を深めました。

公開講演会

第94回公開講演会「ノーベル賞までの軌跡 ―青色LED発明からその後」

2019年9月27日、堺市産業振興センターイベントホールにて、ノーベル物理学賞を受賞した中村修二氏をお迎えし、公開講演会を開催しました。中村氏は、米国カリフォルニア大学サンタバーバラ校工学部教授。世界に先駆けて、実用に供するレベルの高輝度青色発光ダイオードを発明・開発。赤崎勇氏・天野浩氏と2014年にノーベル物理学賞を受賞しました。今回は、アメリカから一時帰国してのご講演でした。

当日の来場者は500名を超える盛況ぶり。中村氏は、ジョークで会場を和ませながらも熱のこもった公演をされ、ご来場いただいた皆様もとても満足しておられました。

この講演は、花園大学同窓会南大阪支部のみなさんが中心となって、企画、中村教授との折衝や宣伝全般、当日の会場運営などを行いました。

主催：花園大学同窓会
後援：花園大学/堺市/堺市教育委員会/堺商工会議所/堺北ロータリークラブ
実行委員会：花園大学同窓会南大阪支部

第95回公開講演会 映画試写会『いなくなれ、群青』

2019年8月23日、高校生ペアまたは高校生とその同伴者130組260名様をご招待し、OSシネマズ神戸ハーバーランドにて、花園大学プレゼンツKADOKAWA映画提供「いなくなれ、群青」特別試写会を開催しました。

第8回「大学読書人大賞」受賞作にして、「読者メーター読みたい本ランキング」第1位を獲得した河野裕（こうの　ゆたか）原作『いなくなれ、群青』の実写映画化版とあって、たくさんの方にご鑑賞いただきました。

会場では花園大学ガイドブックを配布し、上映前にはインフォメーションビデオを上映、さらに社会福祉学部長の佐々木教授が挨拶を行いました。

主催：ディリースポーツ
協力：KADOKAWA/OSシネマズハーバーランド
協賛：花園大学同窓会/花園大学同窓会兵庫東支部/花園大学

第96回花園大学公開映画上映会「あん」

2019年8月27日、京都府綾部市の京都府中丹文化会館にて、映画「あん」の上映会を開催、250名を超える来場者をお迎えしました。講演前には花園大学のインフォメーションビデオを上映し、花園大学同窓会京都中丹支部の河野義方支部長、花園大学の秦美香子就職部長が舞台挨拶を行いました。

映画は、樹木希林最後の主演作、「あん」。

「やり残したことは、ありませんか？私たちはこの世を見るために、聞くために、生まれて来た。･･･だとすれば、何かになれなくても、私たちには、生きる意味があるのよ。」元ハンセン病患者の老女が尊厳を失わず生きようとする姿を丁寧に紡ぐドリアン助川さんの長編小説を、河瀬直美監督が映像化した心揺さぶる作品です。カンヌ国際映画祭「ある視点」部門オープニング作品となり、感動の名作として今も各地で上映されている映画です。

京都中丹支部の映画上映会は、昨年初めて開催、今年も引き続いてぜひ開催を！との要望があり実現。今年も京都中丹支部のみなさんが中心となって企画・宣伝・会場運営を行いました。

主催：花園大学同窓会京都中丹支部 花園大学同窓会
共催：花園大学
場所：京都中丹文化会館

花園大学同窓会学園祭支援プログラム

ラジオ関西『青春ラジメニア』公開録音トーク&ライブを開催！

天候に恵まれ、大いに盛り上がった学園祭をさらに同窓会がバックアップ！！場所は無聖館5階ホール。

ラジオ関西「青春ラジメニア」でお馴染みの南かおりさんとアニソンシンガー佐咲紗花さんをゲストに迎えて、約1時間にわたるトーク&ライブを開催しました。ホールに集まったたくさんのファンを前に、アニメソングを数曲披露。曲に合わせての拍手や声援は、熱気に包まれ、ラジオでも十分に伝わりそうなステージでした。

今回公開録音した内容は、2019年11月24日（日）、16:30～16:55、ラジオ関西「青春ラジメニア」で放送されました。

大学ニュース

花園大学で行った行事やイベントなどを中心とした新しい情報を紹介します。

大学摂心

後期授業が始まる前の9月19日（木）～20日（金）毎年恒例の大学摂心を開催しました。

2日間の日程で、初日には大本山天龍寺様の友雲庵と禅堂をお借りし、2日目は花園大学の禅堂、教堂にて実施致しました。

初日は、天龍寺派管長佐々木容道老大師による御法話を拝聴致しました。その後、天龍寺様の友雲庵と禅堂に分かれて坐禅を行ない、歴史ある諸堂拝観をさせていただきました。当日は爽やかな秋晴れと吹き抜ける風とで最高の坐禅日和となり、学生達・教職員ともにいい経験となりました。

2日目。禅堂で坐禅を行なった後、教堂で横田南嶺花園大学総長の提唱を拝聴しました。その後、斎座（昼食）は「学生食堂カフェテリアふるーる」で饂飩供養を行い、僧堂の作法に則った形式で饂飩を頂きました。また今年度も昨年度に引き続き摂心終了後に、希望者凡そ40名と横田総長との懇談会を行いました。学生達は勉学だけでなく、人生に関わる諸問題について横田総長に質問し、貴重なご意見やアドバイスを頂戴し刺激を受けたようです。

2019年度京花祭

花園大学学園祭「京花祭」にお越し頂いた皆様、ご来場ありがとうございました。今年度から実行委員が新たな団体となったこともあり、至らない部分も多くあったこととは思いますが、皆様のおかげで無事に終えることが出来ました。

今年度は、仮面ライダーショーやバケツ太鼓など、子どもを対象とした催しを多く取り入れており、そのためか親子での参加者が多くみられたように思います。その他にも学生の保護者のみなさんの参加も多く、花園大学同窓会学園祭支援プログラムとして、ラジオ関西公開録音も開催され、例年より来場者を増やすことに成功致しました。笑顔があふれる2日間として皆様の思い出になれば幸いです。

学園祭は大学、学生だけではなく、地域の方々と協力して成り立っているものだと感じた次第です。来年度も地域に根ざした学園祭を心掛け、より多くの皆様に笑顔を届けられるように尽力いたしますので、ご理解ご協力のほど、お願い致します。

最後になりましたが、京花祭開催にあたりご協力いただいた花園大学同窓会、花園大学後援会、教職員の方々、学生、関係者の方々に心より感謝申し上げます。

（京花祭実行委員長　久保田　明）

第33回花園大学人権週間報告

第33回花園大学人権週間を2019年12月2日～5日の日程で開催しました。

今回のプログラムは、前夜祭・映画『いのちの深呼吸』上映、佐々木閑さん「ネットカルマ―現代社会の新たな苦悩」、玉置妙憂さん「仏教と看取り～終末期のスピリチュアルケア」、根本一徹（僧名：紹徹）さん「『死んでる場合じゃないぞ！』～消えたい気持ち。様々な生死観から見えて来たこと～」の3本の講演です。今回は「仏教と人権」を統一のテーマに講師をお招きしました。いつの時代においても、生きること、死ぬことは大きな命題です。しかし、現代では、これまでになかった苦悩がそこに新たに加わりました。ネットという技術革命により便利になった反面、すべてが記録・監視され、やったおこないに対する報いがもたらされる社会。そのような社会変化から、増長される生きづらさ、生きにくさ。「死にたい」「消えたい」という気持ちから多くの人が自殺する社会。かと思えば、医療技術の進歩により自然に「死ぬ」こともできない。いつ「死ぬ」のかの選択を迫られる社会。生きること、死ぬことが以前にもまして難しくなった現代社会において、いかに生き、いかに死ぬか、考えさせられる4日間でした。

《花園大学プレゼンツ》映画試写会『ダンスウィズミー』

2019年7月23日、高校生ペアまたは高校生と保護者のペアをご招待し、T・ジョイ京都にて映画試写会を開催しました。
上映した映画は、8月16日全国ロードショーを控えた『ダンスウィズミー』。『ウォーターボーイズ』『ハッピーフライト』など手掛けた矢口史靖が監督をつとめた、ミュージカルコメディー。ミュージカルスターになる催眠術をかけられた女性が、ゆく先々で様々な人と出会い、騒動を起こしながらも、本当に自分のやりたいことに気づいていくストーリー。

来場者には、花園大学のパンフレットやオープンキャンパスの案内を手渡しながらお迎えし、花園大学のインフォメーションビデオを上映、続いて花園大学丹治光浩学長が舞台挨拶を行いました。

主催：毎日新聞社大阪営業部
協力：ワーナー・ブラザーズ映画　T・ジョイ京都
協賛：花園大学同窓会　花園大学

花園大学公開講座「京都学講座」

毎年恒例「京都学講座」、今年は20回目の開催でした。平成から令和の時代へ転換期の今、京都を軸に、宗教・文学・日本史の視点から、時代の転換期について、9月7日・8日の2日間、1日2講座構成、計4講座を開催しました。講演が終わった後も質問の列ができるなど、各講座ともに盛況となりました。
来場者は2日間で延べ350名。関西以外の遠方からも多くご来場いただきました。

テーマ：『時代の転換と京都』
会　場：花園大学無聖館5階ホール

9/7（土）	13：00〜14：30	**「近世京都の人々と改元」** 吉野健一氏 （宮廷文化研究家・京都府教育庁文化財保護課職員）
	14：50〜16：20	**「野間宏と京都」** 高橋啓太氏（花園大学専任講師）
9/8（日）	13：00〜14：30	**「信長と京都　宿所の変遷からみる」** 河内将芳氏（奈良大学文学部教授）
	14：50〜16：20	**「明治期の相国寺」** 藤田和敏氏 （相国寺寺史編纂室研究員・花園大学非常勤講師）

2020年度も京都学講座を開催いたします。

花園大学公開講演会「明智光秀の実像に迫る」

2019年11月30日、花園大学無聖館5Fホールにて、500名収容のホールが満席になるほどの来場者に足を運んでいただき、花園大学公開講演会「明智光秀の実像に迫る」を開催しました。

講師は、『図説 明智光秀』など、光秀に関するご著書を多数ご執筆されている、東洋大学文学部史学科非常勤講師の柴裕之先生と、花園大学文学部日本史学科専任講師の生駒孝臣先生、司会進行・コーディネーターは、同じく文学部日本史学科教授の松田隆行先生が務めました。生駒先生は、「明智光秀と京都」と題して、光秀の今日のイメージからスタートし、主に「京都」に焦点をおいて光秀の足取りを追いながらその実力と人柄に触れる講演をされました。

休憩をはさんで、柴先生が「織田信長と惟任（明智）光秀」と題して、惟任光秀の前半生、足利政権、信長との関係、織田家での活躍、そして謀反への道について、地図や家系図、古文書などからわかりやすく講演されました。
明智光秀は、2020年度NHK大河ドラマの主人公。主君、織田信長を討った逆臣として語られてきた明智光秀が本当はどのような人物であったのか？史料や家系図、地図などによって、多方面からスポットライトをあて、その実像に迫る白熱の4時間でした。また質疑応答の時間も、質問が絶えることなく、講演終了後も、講師のもとへ駆け寄る姿も見られました。

主催：花園大学同窓会・花園大学

2019年度 就職・教育懇談会ご報告

2019年10月26日、後援会・大学共催にて、就職・教育懇談会を開催、66組91名の保護者のみなさま方にお越しいただきました。午前には教堂にて、丹治光浩学長、秦美香子就職部長の挨拶の後、京都ジョブパーク学生支援センターの中川高志氏を講師に迎え「最近の就活事情と関わり方について〜地域（地元）でハタラク！という選択〜」というテーマで約1時間講演いただき、午後からは、就職・進路に関する相談、クラス担任相談、成績・単位取得状況に関する相談、学生生活に関する相談など、個別相談を行いました。

就職・教育懇談会は、学園祭と同時開催がスタートして3年目。今年も模擬店で利用できる500円分のチケットをご用意いたしました。秋晴れの中庭で、学園祭を楽しんでおられる保護者の姿も見られました。

2019年度　地域連携講座《まなび庵》（全5回）

時間　18：00～19：30　　場所　教堂

開催日	講　座　名	講　師
6/27（木）	第１回「Let's　写経講座～こころを整える～」	小川太龍先生 （文学部仏教学科専任講師）
7/22（月）	第２回「カルタ de 禅語講座～禅のことばに親しむ～」	関守研吾先生 （文学部仏教学科非常勤講師）
10/8（火）	第３回「ムーミンで英語を学ぶ講座 ～大人向けムーミンコミックスの世界～」	秦美香子先生 （文学部日本文学科准教授）
11/12（火）	第４回「和菓子の文化を楽しく学ぶ講座 ～奥深い和菓子の世界へようこそ～」	千田眞喜子先生 （社会福祉学部児童福祉学科教授）
12/5（木）	第５回「本当は身近な家族の心理学講座 ～磯野家・さくら家・野原家に学ぶ～」	丹治光浩先生 （学長・社会福祉学部臨床心理学科教授）

以上、地域のみなさんの学びの場として、多彩な５講座を開催しました。

特に、第1回「Let's　写経講座」、第4回「和菓子の文化を楽しく学ぶ講座」は、実際に写経にチャレンジをしたり、花園大学茶道部和敬會の協力のもと、和菓子とお抹茶を楽しんでいただいたり、体験できるプログラムを開催、どの講座もほぼ満席となる盛況ぶりでした。

2020年度も引き続き、地域連携講座《まなび庵》を開催いたします。同窓生のみなさまもどうぞご参加ください。

子ども向け防災イベント！！「イザ！カエルキャラバン！in はなぞのだいがく」

晴天に恵まれた2019年12月15日（日）13：00～16：00、自適館にて、たくさんの子どもたちを迎え、無事に開催することができました。今年は25名もの学生が、子どもたちに防災に役立つ知識や技術を、ゲームや紙芝居などを通して伝えるスタッフとしてがんばりました。その中でも、パペット人形劇「おたま劇場」は、キャリア科目「課題解決プログラム」受講生による花園大学オリジナルシナリオ版！子どもだけで外出しているときに地震にあってしまったら？という想定で、子どもたちにも考えさせるクイズを盛り込んだシナリオを完成、披露しました。

その他、京都市中京区保健福祉センター協力による災害時クッキング試食コーナーや右京警察所協力による防犯コーナーも設けました。子どもたちは夢中になって、次々とブースを回って、かえっこポイントを集めながら、防災の知識を学んでいました。

主催：花園大学
協力：NPO法人プラス・アーツ
中京区役所・朱八地域自主防災会
右京区役所・花園学区自主防災会・
右京警察署

★開催した防災体験プログラム

・防災カードゲーム「なまずの学校」・水害紙芝居
・毛布で担架タイムトライアル・非常持ち出し品なあに？クイズ
・家具転倒防止ワークショップ・防災工作室（紙食器・ビニールカッパ作り）
・身近なもので応急処置・人形劇「おたま劇場」（花園大学オリジナルシナリオ版）
・災害時クッキング試食コーナー（保健福祉センター）・防犯コーナー（右京警察署）

※「イザ！カエルキャラバン！」とは、おもちゃの物々交換（かえっこ）と 楽しくアレンジした防災プログラムを組み合わせた子ども向け防災イベントです。

防災功労特別表彰受賞！

2019年10月15日（火）、ロームシアター京都メインホールで開催されました「京都市自治記念式典」にて、京都市から「レジリエント・シティ京都　防災功労特別表彰」を受けました。

京都市、自然災害や人口減少をはじめとする様々な危機に対し，粘り強くしなやかに対応し、将来にわたって人々がいきいきとくらせる、魅力と活気に満ちた都市（＝レジリエント・シティ）の実現に向けた取組を進めています。その中、花園大学では、地域の防災イベントとして、毎年「イザ！カエルキャラバン！」を開催。地域の子どもたちへの地域防災啓発活動の功績が認められました。

お元気ですか

シンガーソングライターちひろさん、パラリンピック柔道選手 廣瀬順子選手。

お二人とも同郷で、同じ花園大学出身とのご縁により、

ちひろさんが廣瀬選手へむけて応援ソングを作ってくださいました。

ちひろ さん

シンガーソングライター・ラジオパーソナリティ

昨年3月、廣瀬順子選手の小・中・高と指導にあたっていた吉富久悦氏（山口県柔道協会強化委員）が山口市で講演された際、私の所属事務所社長が聴講に伺った。

元々柔道経験のある社長は、「柔道から学んだ私の生き方」というテーマに惹かれてのことだったが、実は廣瀬選手も同行されることがわかり、事前に廣瀬選手のプロフィールを改めて調べたところ、私と同じ花園大学出身であることが分かった。

ご縁を感じ、前日の懇親会から参加した社長は、吉冨氏と廣瀬選手と話をさせていただく中で、私が同じ山口市出身ということだけでなく、花園大学社会福祉学科卒業という共通点にお二人も大変驚かれた。更に廣瀬選手は以前、私のステージを観ていてくださったことでとても話が盛り上がり、社長はその余韻のまま翌日の講演会へ。終演後、少し話をさせていただいた中で、なんとその場で吉冨氏が「廣瀬順子の応援ソングを作ってくれないか」と仰った。

都合で参加できなかった私も社長からその経緯を聞き、すぐに引き受ける返事をした。

廣瀬選手は現在御主人の故郷・愛媛県松山市在住ということもあり、彼女と私は電話が最初のやりとりとなった。同郷で花大出身ということが心の距離を縮めてくれた。そして山口市のご実家へお邪魔し、お母様から直接彼女の生い立ちや柔道への姿勢、病気を患って弱視となられた際の葛藤、その時に花園大学との縁でとても助けていただいたことなどをお聞きした。涙ながらに話されるお母様の言葉の奥に、廣瀬選手の柔らかな笑顔の裏にある強さを見た気がした。

歌のタイトルは「自分に出逢うために」。廣瀬選手の苦しみの先に本当の自分に出逢えたという想いを込めた。

8月、廣瀬選手が山口に帰省された際、山口県庁で歌の完成披露記者発表を行った。廣瀬選手、吉冨コーチ、私の3人での会見。会場には山口県内の主要な全メディアが来てくださり、なんと「もう一度！」と最後に歌のリクエストがあった。記者さんの中には椅子に立ち、大きく手を揺らし盛り上がってくださった方もおられた。あのような雰囲気は初めてだったと、別の記者の方が言う。

こうして今、廣瀬順子選手の応援の輪は大きく広がっており、この歌は有志の方々のご協力でCD化される。

シンガーソングライターとして15年。主な活動として、童謡詩人金子みすゞの詩に曲をつけ全国で公演し、おかげさまで1,100回を超えた。その中で花大出身者と巡り合う時、同窓生としての大きな喜びをいただく。これからも花園大学出身であることに誇りを持ち、精一杯活動を通して心と心の交流を続けていきたい。

プロフィール

花園大学文学部社会福祉学科（現：社会福祉学部社会福祉学科）卒業。
山口県山口市出身。
金子みすゞの詩に作曲し歌い語る“メッセージシンガー”。NHK横浜放送局の新番組ラジオ「はま☆キラ！」のテーマ曲「YOKOHAMA ORANGE」を作曲。NHK「ラジオ深夜便」にも出演。エフエム山口特別番組「こだまでしょうか～今、金子みすゞの心を聴きたい～」でパーソナリティを務め、第7回日本放送文化大賞ラジオ部門で準グランプリを受賞。
2016年 広島東洋カープの公式試合（マツダスタジアム）にて国歌斉唱を務め、カープは25年振りにリーグ優勝。

■ラジオレギュラー番組
- NHK「中国！ちゅーもく！ラジオYAMAGUTIC」<中国5県放送>
- KRY山口放送ラジオ「ちひろDEブレイク」
  （放送開始から15年目・radiko.jpでも全国放送中）

■近年の楽曲制作
- 湯田温泉PRキャラクター“湯田ゆう太・ゆう子”のテーマソング「湯田温泉にKON来ん?」／作詞作曲
- 視覚障害者柔道・廣瀬順子選手（山口市出身）の応援ソング「自分に出逢うために」／作詞作曲

■関連商品
「金子みすゞの子守唄で寝かせた味噌」（株式会社シマヤ製造発売）
ちひろが作曲し歌う「波の子守唄」を聴かせ熟成させた商品。
読売テレビ「秘密のケンミンSHOW」でも紹介される。

廣瀬 順子 さん

昨年、柔道の恩師を通じてちひろさんと出会い、わたしにとって大切な思い出の沢山ある、同じ花園大学のご出身だと知って、とても驚きました。昔、ステージで見ていたちひろさんに、自分の応援ソングを作っていただいた事は、本当に光栄です。一度聞いた時から、メロディーが耳に残り、つい口ずさんでいます。

ちひろさんが作ってくださった「自分に出逢うために」には、初心を思い出せてくれる力があり、試合前、プレッシャーに負けそうになってしまったときに聞くと、心が落ち着き、自分らしく頑張ろうと思うことができます。これから、2020年東京パラリンピックに向けて、大切な国際大会が続きますが、試合前にこの曲を聞いて頑張りたいと思います。

わたしは今、2020年東京パラリンピックへの夫婦での出場と、金メダル獲得を目指して、同じ選手である旦那さんと一緒に競技に取り組んでいます。

ちひろさんの応援ソングはもちろん、たくさんの方々の応援は、私たちの大きな力になります。

精一杯頑張りますので、皆さん応援よろしくお願いいたします。

プロフィール

花園大学社会福祉学部臨床心理学科2014年卒業
山口県山口市出身。
- 伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社所属
- 2016年リオデジャネイロ・パラリンピック柔道女子57kg級・銅メダル獲得
- 2017年第32回全日本視覚障害者柔道大会57kg級・金メダル獲得
- 2018年IBSAワールドカップ（トルコ）柔道57kg級・優勝
- 2019年IBSA柔道グランプリ　タシュケント大会57kg級・銅メダル獲得

お久しぶりです

佐々木　閑　仏教学科　教授

仏教の基本は、修行によって煩悩を消し、安楽な心を実現することです。しかし、一人でじっと坐っていても修行にはなりません。教えを学び、正しい指導を受け、毎日規則正しい生活を送ることで初めて修行は進むのです。そのため僧侶は、必ず集団で修行生活を送らねばならない、と決められています。僧侶たちが一緒に暮らし、規則を守りながら修行に専心しなければならないとされているのです。これはインドで、お釈迦様の時代から続く制度です。そのような僧侶の組織のことをインド語でサンガと言います。禅宗の僧堂は、そのサンガの生活を日本風にアレンジしたもので、日本版サンガといってもいいでしょう。

サンガの中には、しっかりした教育制度ができていて、先に出家してサンガのメンバーになった先輩が、後から入ってきた後輩に仏教の教えや日々の生活方法を手取り足取り教えることになっています。つまり先輩が師匠で、後輩が弟子ということです。ただし、師匠は決して強い権力を持っているわけではなく、弟子を好きなようにこき使うことはできません。むしろ逆で、師匠には常に弟子が成長できるように正しく教育する義務が課せられます。

もし師匠が理不尽なことや間違ったことをした場合は、弟子の方が師匠を諌めねばなりませんし、弟子が病気になったら師匠が看病するのです（もちろん師匠が病気の時は弟子が看病します）。ここには、先輩と後輩が互いに助け合うことで、共に成長していこうという、前向きな姿勢が現れています。組織の中に、「いばりたい」「権力をふるいたい」という煩悩が入り込まないように、きちんと制度設計ができている。それが釈迦という宗教家の素晴らしいところなのです。

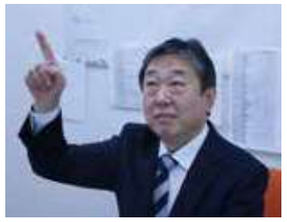
花園大学は、その釈迦の教えである仏教を基本理念として運営されています。だからこそ、先を行く者はいつも後ろを振り返り、後ろに続く者は先達を見上げるということをいつも心がけておくことが大切なのです。

貝阿彌　拓明　学務課　課長

京都に来るようになり何年経ったでしょう。18歳から現在まで、長きに亘り大阪から京都まで通っています。大阪の自宅を毎朝6時過ぎに出発し、京都に着くのが午前8時頃。帰りは早い時もあれば遅い時もある（たまに午前様もあるが・・）。振り返れば、一日のほとんどを京都で過ごす生活が続いています。職場が大学なので当然のことですが・・。京都に滞在している時間を学生時代から現在まで大雑把に勘定すると、39年間で凡そ113,568時間（あってる?）。帰宅しても事実上、粗方が就寝時間なので、人生の殆どを京都で過ごしていることになります。最早、大阪人ではなく京都人みたくなっています。

さて、大学も39年間で大きく変わりました。事務局の組織も、私の所属する「学務課」は、「教務課」と「学生課」が統合されひとつのセクションになりました。また、校舎も綺麗に建て替わりました。その昔は、事務局が入っていた「A棟」、それが建て替えられ「無聖館（図書館棟）」に。現在の「惺々館」は「B棟」という名称で使われていました。武道場の第二体育館は、その存在すら憶えている人は少ないのではないでしょうか。食堂については正門を入った右手、現在の「蔭涼館」辺りにありました。当時のB定食（感心するぐらい薄くスライスされたペラペラの魚フライ定食）の懐かしい味は、今も忘れることができません。現在は、明るい雰囲気の綺麗な食堂となっています。同窓会の皆様の支援もあり、「同窓会うどん」が50円で提供されています。有難うございます。新たなキャンパス整備計画も完成し、今年よりその工事が始まります。今後、キャンパスもさらに変わっていきます。実を言えば、この39年間で私も想像を絶する体形に変わってしまいました。

是非、近くにお越しの際は、大学にお立ち寄り頂き、学務課も覗いて声を掛けてください。



書籍案内

『御用! 半七捕物帳』　浅子逸男著／鼎書房

表紙の絵は渓齋英泉の『当世会席尽』から「深川土橋平清」。捕物帳のなかの「薄雲の碁盤」に「旦那は深川の平清に来てゐる」という一言が記されているが、平清は富岡八幡宮の近くにあり、江戸から明治にかけて有名な料理屋であった。谷崎潤一郎の「刺青」で、清吉が理想とする足を持つ女性を見かけるのが平清の前である。駕籠からこぼれるように出ていた足は足袋を穿いていない。深川芸者であることをほのめかしている。しばらくして清吉の前にこの女が現れる。顔は見ていなかったのに清吉はあのときの足の女だと直感する。女は半玉。羽織を持ってきたことから羽織芸者の妹分だとわかる。その平清ということでカバーに用いた。

さて『御用！　半七捕物帳』である。「半七捕物帳」は大正六年から昭和十二年まで、中断した時期もあるが、継続して執筆された。全六十九話。だが初出誌にあたると二つの話を一つにしたものもある。また「白蝶怪」は昭和四十二年の青蛙房版の『半七捕物帳』に収録されてから、半七物として数えられるようになった。ということで「半七捕物帳」がいくつの話で構成されているかと問われると、非常に難しい説明をしなければならない。さらに主人公の半七の年齢も途中から変化する。その理由についても本書では解明した。いままでの半七ファンによる書物では触れられなかったことばかりである。「半七捕物帳」自体が大きな謎だった。その謎を解いた趣味的な本としてお読みいただければ幸いである。　2019年6月13日『日本経済新聞』夕刊で縄田一男氏が取りあげ、「読むべし」と評価している。

【復刻版】青い馬　浅子逸男・宮崎真素美・庄司達也　解題／三人社

坂口安吾がアテネ･フランセに在学していたとき、仲間たちと刊行した同人雑誌『言葉』と『青い馬』の復刻版である。安吾はここに「木枯の酒倉から」、「ふるさとに寄する讃歌」、「風博士」を掲載し、牧野信一に認められて文壇に登場した。しかし、この同人雑誌を全冊揃いで見ることはできなかった。

ここには安吾ばかりでなく、菱山修三や葛巻義敏、のちに日影丈吉の名で探偵小説を書く片岡十一、ラディゲの翻訳で知られる江口清も同人として名を連ねている。そればかりでない。伊藤昇、太田忠といった音楽家作曲家も文章を寄せているのだ。安吾が「ピエロ伝道者」（『青い馬』創刊号）の末尾を「蛙飛び込む水の音を御存じ?」と締めくくったのは、太田忠が『言葉』の第二号に「作曲家は遂に、古池に蛙が飛び込んで、『ボチヤン』と水音を書かねばならない」と書いたことへの応答であったと合点する。

こうしたことのひとつひとつを読み解いていく契機ともなるので、いちど手に取ることをおすすめする。同人雑誌七冊を収めた本書はあたかも詩の宝石箱の輝きを放っている。

2019年7月18日『新潟日報』にインタビュー記事が掲載された。

『ヘイトの言葉はこうしてつくられる』　八木晃介著／批評社

（まえがきより抜粋）「私たち人間はさながら言葉（言語）の海を泳ぐ魚に似ているのではないか。海を泳ぐ魚から海をとりあげれば、魚はたちまちにして干上がってしまいます。同様に、私たち人間が依存している言葉（言語）のコンテクスト（関係性と状況的文脈）を取り去ってしまえば、私たち人間はもはや認識的存在たりえなくなるはずです。本書の各章のテーマはバラバラに見えますが、私は、すべてのテーマが、いささか抽象的に記したこのまえがきの問題意識に連結していると考え、一冊にまとめることにしました。」

ヘイト･スピーチ（クライム）は<魂>の殺人と同じ犯罪。どうしてこのような犯罪が執拗に行われるのか。風評・デマ・うわさが触媒する鬱屈した民衆意識への社会心理学的接近から解き明かす一冊です。

『ヴィゴツキー、ポラン／言葉の内と外 ― パロルと内言の意味論』

ヴィゴツキー（著）･ポラン（著）･神谷栄治（著）／神谷栄治（訳）･小川雅美（訳）･伊藤美和子（訳）／三学出版有限会社

外的形相的側面と内的意味論的側面とから構成される内言理論はヴィゴツキーの言語理論の白眉であった。そのうえでポランのパロルに関する所説は大きな役割を果たした。限りなく縮小されて最後には「語のかけら」にさえなる外的形相的側面と、それに反比例するかのように、意味が膨大に拡がっていく内的意味論的側面、両側面は相互に依存し合うとともに対立的であるという点こそ、ヴィゴツキーがポランから学んで到達した内言理論である。以上は第I、II章の中心的内容であるが、第III章では、この点の解説を含めて、言葉は人間の外側にも内側にも存在すること、さらに、言葉そのものにも外側と内側があること、という観点から言語について論じている。

『新生児マス･スクリーニングの歴史』　笹谷絵里著／洛北出版

新生児マス･スクリーニングとは、子どもを対象とした、疾患の早期発見・早期治療を目的とする医療事業・制度です。

しかし、この本では、この一般的認識に対して、疾患の遺伝子情報をもつ保因者である親を検出し特定する検査(遺伝学的検査)という視点から、新生児マス･スクリーニングの内実をあらためて考察しています。この遺伝学的検査という、いわば今までは影であった部分に照明をあてることによって、別の現実を、ほんのわずかかもしれませんが、明らかにすることができるのではないかと思っています。つまり、検査で子どもに疾患があると分かった場合、その親は、疾患の遺伝情報の保因者として、疾患をもつ子どもをふたたび産む「恐れ(リスク)のある」存在とみなされるという現実です。

この、新生児マス･スクリーニングの進展と普及は、子どもの検査とされながらも、同時に、親の遺伝情報の検査としても機能してきた歴史でもあったことを本書で明らかにしています。

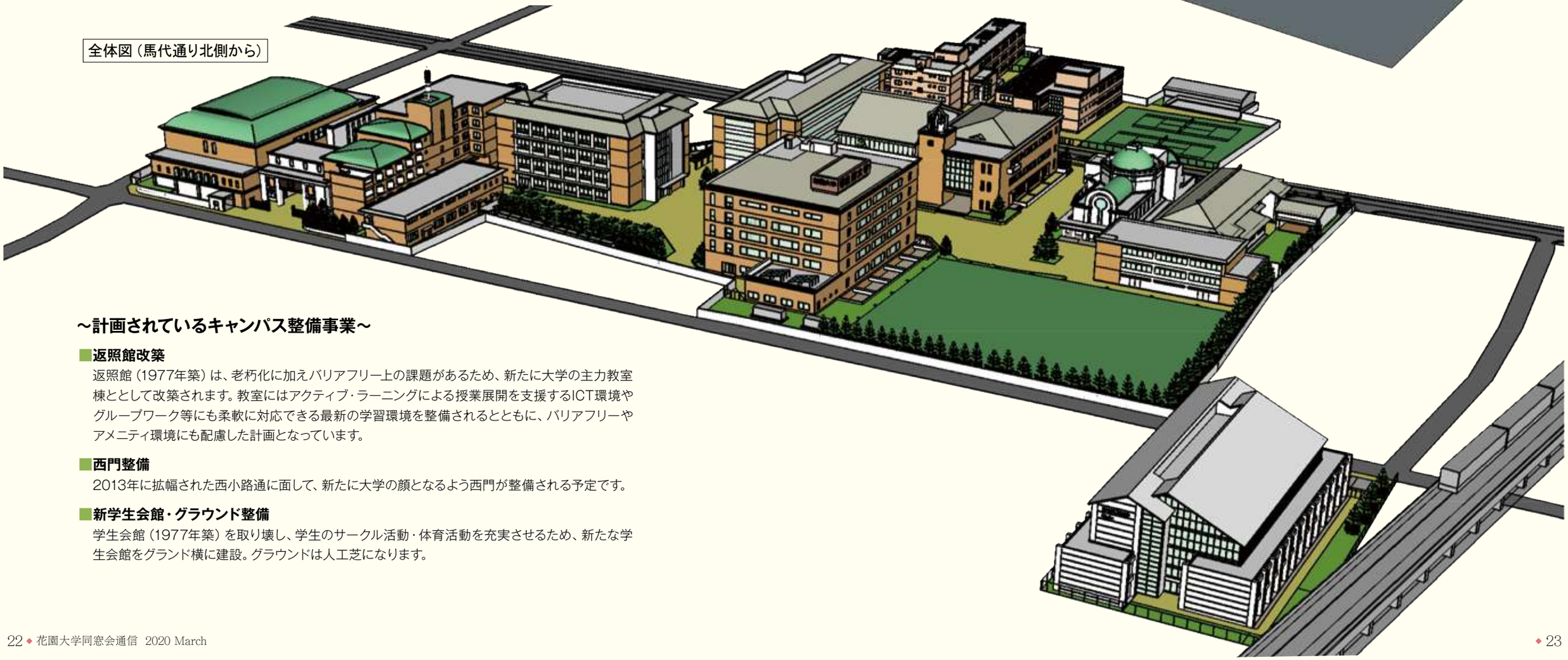
花園大学創立150周年記念事業協力のお願い

日頃から、母校花園大学の教育研究活動に、ご理解ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。
おかげさまで、来る2022年には創立150周年を迎える運びとなりました。
花園大学は、「花園大学ZEN to you & you 中期ビジョン2021」を策定され、
キャンパス整備を記念事業として、老朽化した施設・設備を更新し、
学生にとって安全で快適な学習環境の整備を計画されています。
最初に着手する新学生会館建設・グラウンド整備については、
2020年夏の完成に向けて既に工事が始まりつつあります。
同窓会といたしましても、これらの事業を支援して参りたいと思います。
何卒よろしくお願い申し上げます。

花園大学同窓会長　嶺　興嶽

新返照館完成イメージ（広場側から）

新学生会館・グラウンド整備



全体図（馬代通り北側から）

～計画されているキャンパス整備事業～

■返照館改築

返照館（1977年築）は、老朽化に加えバリアフリー上の課題があるため、新たに大学の主力教室棟ととして改築されます。教室にはアクティブ・ラーニングによる授業展開を支援するICT環境やグループワーク等にも柔軟に対応できる最新の学習環境を整備されるとともに、バリアフリーやアメニティ環境にも配慮した計画となっています。

■西門整備

2013年に拡幅された西小路通に面して、新たに大学の顔となるよう西門が整備される予定です。

■新学生会館・グラウンド整備

学生会館（1977年築）を取り壊し、学生のサークル活動・体育活動を充実させるため、新たな学生会館をグランド横に建設。グラウンドは人工芝になります。

ホームページ、フェイスブック、ツイッター、インスタグラムでも大学の情報を発信しております。

ホームページ

花園大学 同窓会通信100号 2020.3発行

〒604-8456 京都市中京区西ノ京壺ノ内町 8-1
同窓会事務局
電　話 (075) 811-5181 (代)
(075) 279-3630 (直)
F A X (075) 823-2412 (直)
E-mail dousou-h@hanazono.ac.jp